

〔伊呂波字類抄知地儀〕

〔古事記上〕天地初發之時於高天原成神名天之御中主神○下

〔日本書紀一神代〕古天地未剖陰陽不分渾沌如雞子溟涬而含牙及其清陽者薄靡而爲天重濁者淹滯而爲地精妙之合搏易重濁之凝竭○據一本改場難故天先成而地後定然後神聖生其中焉故曰開闢之初洲壤浮漂譬猶游魚之浮水上也于時天地之中生一物狀如葦牙便化爲神號國常立尊

〔淮南子一假眞訓〕天地未剖陰陽未判四時未分萬物未生注然平靜寂然清澄莫見其形

〔淮南子天文訓〕天墜未形鴟鴞翼翼洞洞濁故曰大昭道始于虛霧虛霧生宇宙宇宙生氣氣有溟垠清陽者薄靡而爲天重濁者凝滯而爲地精妙之合專易重濁之凝竭難故天先成而地後定

〔釋日本紀述五義〕三五曆記曰天地渾沌如雞子盤古生其中萬八十歲天地開闢陽清爲天陰濁爲地

盤古在其中一曰九變神於天聖於地

〔萬葉集二十〕阿米都之乃以都例乃可美乎以乃良波加有都久之波波爾麻多己等刀波牟
右一首埴生郡大伴部麻與佐

〔神代直指抄〕つちといふはひき、義せばき義いやしき義ぐだる義四義そなはりて陰道の義をあらはすつちをちといふちは合聲にて下の義也のちに雨をあめといふは天よりふるゆへに天のことばをそのまかりていふ土をつちともいふこれ又かりていふことば也

〔日本釋名天象〕天地○中 つちといふはひき、義いやしき義を取て陰道をあらはす

〔東雅二地輿〕地ツチ 義不詳按するに我國太古の語には天に對しては必ず國といひけり神天國柱國御柱などいふ類悉されば舊事古事等の記に見えし地の字を讀むにもクニといひ又はトコロなど讀む舊事紀の始に天地未剖などしるされし事あれどこれはまさしく三五曆記淮南子等に見えし所を槩括して其文を成され地の字を讀む事我國もとより土を呼ぶことばによ